

淡水化装置をIOT化

ワイズグローバルビジョン

海水淡水化装置を開発・販売するワイズグローバルビジョン(うるま市、柳瀬良奎社長)は、県立武道館の屋内展示場で、製品にインターネットでつながるIOT機能を導入した新たなサービスを紹介している。

同社は小型の海水淡水化装置を海外11カ国で販売しており、IOT機能の導入によって各地での使用状況や水質を本社で一元管理できるメリットがあるという。また、

海水などを処理するフィルターの時期やメンテナンスの必要性などを顧客に適宜伝えることも可能になるとしている。

NECの協力を得て、近くサービスの開始を目指している。柳瀬社長は「海上の船で使われている例もあるが、作動していない状況があれば、

④海水を飲み水に変換する装置など関心が高まったワイズグローバルビジョンの展示

19日、那覇市・県立武道館



磨いた技術力多彩に

受先とする第三者割当増資の受け入れも発表。「三菱UFJフィナンシャル・グループの豊富なネットワークや知見を生かすことで成長にさらなる弾みを付け、3年以内のIPO(新規株式公開)を目指す」としている。